

第5回信州首都圏総合活動拠点整備推進会議

H26.5.16 14:30～

県庁第三応接室

1 信州首都圏総合活動拠点整備推進事業について

(中村委員)

- ・ できれば組織は一本化し、責任の所在を明確にしておくべき。
- ・ 東京観光に絡めるなど、長野県の人が一度は訪れる仕組みづくりが必要。
- ・ 宣伝、告知計画はこれからだと思うが、とても重要である。大切なことは予算をオープン時に全て使いきってしまうのではなく、オープン1ヶ月後、3ヶ月後まで余力を残して使うようにすべき。
- ・ 今は人が入ることを前提にいろいろ考えているが、人が入らない時間帯などを想定した工夫、例えば常設と臨時展示の組み合わせや、記者へのアプローチといったことも、今後は綿密に考えておく必要がある。

(玉村委員)

- ・ 人材の育成をしっかりと。長野県人は愛想がない。
- ・ ディスプレーひとつで入る入らないが決まる。
- ・ 東京の人は花が好きなので、長野県らしい演出に工夫をすべき。

(山口委員)

- ・ 香川県に「まちのシュール」という店舗兼ギャラリーがある。商品の見せ方や雰囲気など参考になるのではないか。
- ・ MDに関して、県産品でなくても県内の事業者が販売していればいいといのほどういうことか。間口を幅広くし過ぎると、扱うモノの個性がなくなってしまう。
→ 基本的に県産品を扱うが、必ずしも県産品でなくても作り手がこだわりを持って作っているものを扱っていく。塩丸イカ等、信州の食文化には欠かせないもの。(小野事務局長)

(母袋委員)

- ・ 先日も他県のアンテナショップを見てきたが、かなり雑然とした印象であった。そういったところと比べると、こちらはかなり整理されてきたという感じがする。他県といかに差別化できるかに勝負がかかっている。上田市も9月にイベントをやらせてもらう予定でいるが、まずはやってみて、そこから自分なりの感想を持ちた

い。

- ・ 常に何かをやっているワクワク感が一般の人々にも伝わることが重要。

(上沢代理)

- ・ 町村にも無償枠をいただいているが、正直いって様子見の町村が多いと思う。また、イベントをやってもお客が来ないのでと、不安に思っているところもある。県にはしっかりとプロモーションをしてもらい、こういった不安をなくすよう対応をお願いしたい。

(水本委員)

- ・ イベントを実施していない時は閑散としているということがないように。後は客足が鈍る冬場の対応を考えていかねばならない。是非出展したいとの希望もいくつか聞いており、県内の企業へもしっかりとPRしていきたい。

(佐々木委員)

- ・ MDに関して、例えば他県産のしいたけを県内で乾燥させて販売することができるということになってしまう。必要以上に難しくすることはないが、ある程度明確に線を引いた運用は必要ではないかと思う。その辺が曖昧になると、決して長くは続かない。

(木藤代理)

- ・ 先日、総会の場において、担当者の方から説明をしていただいた。商品の出品などに関心が高く、連合会としてもしっかりと取り組んでいきたい。当初は試行錯誤の連続だと思うが、根気よくがんばって欲しい。

(酒井代理)

- ・ 催事、イベントをメディアも含めながらいかにPRしていけるかが重要だと思う。食に観光と宿泊を組み合わせたテーマ毎の旅行商品に関心が高いと感じており、私どもも冊子を配布するとともに、テレビでも特集を組んで放送された。常に関心を引きつけるような工夫をしていくことが大切。

(春日委員)

- ・ 農産物の生産、販売を行う団体として思うのは、銀座の拠点において季節のボリューム感をどう演出するかが大事だと思う。一方では、買ったものを持ち歩くのかといったことや、仕入れのロットの問題などもある。そう考えると、買ってもらうよりも食べてもらい、その場でネットを使った注文をしてもらうようなイメージに

なると思っている。

もし買い取りであるならば、期限間際のものは無料で配ってしまうような工夫も必要ではないか。

→ 扱う商品について、基本的には買い取りを考えている。返品するにも手間やコストが掛かる。(小野事務局長)

(中村委員)

- ・ 北海道で買い取り方式に変更したら生鮮品が店頭から消えた。買い取りにすると一年後には大赤字になる可能性が高い。東京の人は 500 グラムの物も買って持ち運ばない。せいぜい 250 グラム程度。入り口は少量で、後は宅配で買ってもらう仕組みとすべき。

(玉村委員)

- ・ ここは基本的にはショールーム。見て食べていただいて、実際にはネットで買っていただくという形になると思う。

2 愛称について

(母袋委員)

- ・ 上田市の文化交流センターでも、市民の皆さんに協力していただいたりと、かなり苦労した。これは県で決めてもらえればいいのではないか。決まればそれが馴染んでいくものだと思う。

(加藤副知事)

- ・ 愛称については、引き続き、県で検討させていただく。